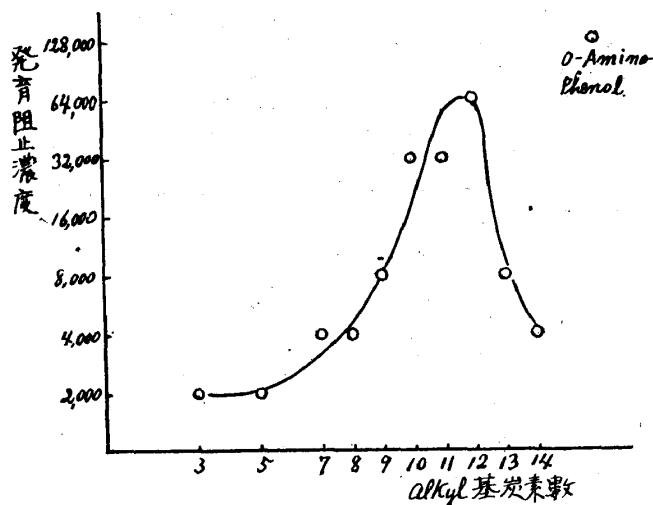


抗菌試験：使用菌株，人型菌 Frankfurt 株，薬剤は塩酸塩を使用，対照として偶数炭素数のものを加え同時培養を行つた。詳細は第 1 報に同じで結果は図に示す通りである。



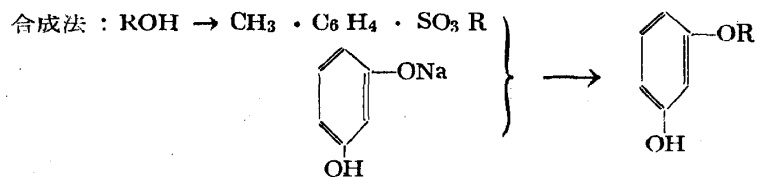
結論：第 1 報に比較して偶数のものも全般的に低い値が見出されてゐるが，抗菌力の alkyl 基炭素数による変化は偶数のものについて得られたものと全く同じで，図に見る如く奇数のものと偶数のものとで曲線がジグザグになる様な事もない。従つて alkyl 基の炭素数の偶数奇数は抗菌力に特異的な影響を及ぼすものではない。この事から長鎖 alkyl 基が抗菌力に関して持つ意義は生化学的なものでなく寧ろ物理的なものではないかと考えられる。

結核の化学療法の研究（第 8 報）

Resorcin monoalkylether の合成並に結核菌に対する抗菌作用

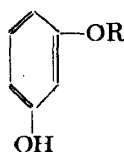
野 津 龍 三 郎	渡 辺	熙	(京大理学部)
岡 信 三 郎	桑 田	蕃	(有機化学教室)
長 石 忠 三	寺 松	孝	(京大結研)
澁 谷 謙 吉			(第 4 部)
有 馬 弘 毅			(市立京都病院)
小 林 君 美	舞 鶴	一	(國立比良園)

オルト型及パラ型に就いてメタ型化合物の抗菌力を検討する目的で Resorcin monoalkylether を一聯に合成，その結核菌に対する抗菌力を試験した。



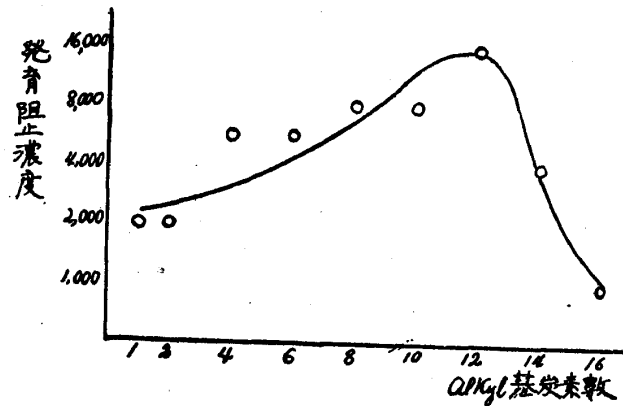
合成した化合物の物理恒数は表の如くである。

Resorcin mono alkylether の物理恒数：



R	B.P. °C (mm)	M.P. °C	比重 d_4^{15}	屈折率 n_D^{15}	R	B.P. °C (mm)	M.P. °C	比重 d_4^{15}	屈折率 n_D^{15}
CH ₃	85 (4)	—	1.145	1.551	n—C ₁₀ H ₂₁	154 (3)	34	—	—
C ₂ H ₅	91—92 (4)	—	1.105	1.540	n—C ₁₇ H ₃₅	181 (3)	45	—	—
n—C ₄ H ₉	121 (4)	—	1.045	1.525	n—C ₁₄ H ₂₉	191 (3)	50	—	—
n—C ₆ H ₁₃	134 (4)	22	—	—	n—C ₁₆ H ₃₃	208 (3)	56	—	—
n—C ₈ H ₁₇	133—134(3)	24	—	—					

抗菌試験：菌株，鳥型菌，検定法は前報に同じ，結果は図に示す。



結論：この系の抗菌力も左程顯著とは言ひ難いが，alkyl 基の大小は多少抗菌力に影響を與えているかの様に見える。

para-Methoxybenzaldehydthiosemicarbazone (TBⅡ) を 中心とする結核の化学療法の研究 (第2報)

澁 谷 謙 吉

(日本結核病学会第27回総会 (昭.27.4) 発表予定)

所謂TBⅠに就ては，Domagk 等が本剤が結核化学療法剤として應用價值を有する事を發表して以來，内外を通じて幾多の實驗的並びに臨床的研究が行われている。その結果，現在ではTBⅠの效果は初期に報告されたほど顯著ではなく，又かなりの副作用を呈する場合が少くないとせられ，その發賣が禁止されている状態にあるが，本系統の藥剤に就ては尙検討の余地があるかと思われる。

そこで Benzaldehydthiosemicarbazone を母体として，種々の誘導体を作り，その効果を增強せしめ，且又副作用を可及的に輕微ならしめようと企てる事は，極めて有意義な事と考えられるが，我國では未だその系統的研究がなく外國では若干の實驗的研究が行われているが，未だ臨床的研究は行われていない。例えば Donovik 及び Pansy は Benzaldehydthiosemicarbazone を母体とする種々の誘導体に就て實驗的研究を行い，p-Methoxy 誘導体 (TBⅡ) は効果並びに毒性の点で他の誘導体に優ると述べ，又 Steinbach 及び Baker も p-Methoxy 誘導体に就て實驗的研究を行い，同様の成績を報告しているが，それ等の何れに於ても未だ臨床成績に就ては報告されていない。

我々は一昨年來，para 及び orthoalkyloxy 誘導体に就て實驗的研究を行いつゝあるが，特に p-Methoxy 誘導体である p-Methoxybenzaldehydthiosemicarbazone (以下 TBⅡ と略称) に就ては，動物實驗並びに臨床實驗をも行い，これを TBⅠ 及び Streptomycin (以下 S. M. と略称) の場合に比較検討した。その成績の要は以下の通りである。